

《札幌市手稲区区長賞》



楽しく生きるには

手稲西小学校 6年 鈴木 颯

ぼくはふつうの小学六年生です。でも、少しこまっていることがあります。

ぼくのクラスみんなは明るいです。友達もいっしょに遊ぶ時、いつも笑顔で楽しく遊びます。ふつうならみんな仲がいいと思うかもしれませんが、でも時々悪口のようなことを言われます。

その悪口は本当なのかじょうだんなのかが分からない。次話すときにその人は笑顔で話しかけてくれる。でも、その笑顔がうそのような気がしてしまうのです。時々親に今自分が思っていることを話します。親は「考えすぎ、別に大丈夫だよ。」と言ってくれます。でも、それでも少し心配です。もしその笑顔がうそなら自分も悩むし、相手もつかれると思ったからです。最近は小さなことがいろいろあって難しく考えすぎてしまう。「考えるだけムダ」と考えてももしかしたら、もしかしたら、と考えてしまいます。ぼくにも友達はいます。ゲームもあります。自分は好きなこと、楽しいことで悩みを忘れていきます。でも悩み事が増えるのはなぜか考えました。自分はいやなことをあまり強く言えません。言う勇気がないのです。そんなぼくからしたら、よくなやみを言える電話がありますが、ちょっと怖くて言えません。どうしても、身近に考えられないのです。

ぼくの親は前に、「きらいって思っていると相手にも伝わるよ。」ぼくはその時、そんなに伝わるものなのか、正直信じていませんでした。ですが少し苦手な人と話しているとだんだん相手もぎこちなく話している感じがしてしまいました。どうしてもぼくはきらいなのかどうか相手に聞きたいのです。そうしないとぼくはまた考えてもムダなことを考えたりしてしまいます。でもぼくにそんな勇気はないです。まだこの世界では、言うことができません。

この作文を書いている途中、ぼくはあることを思い出しました。それは学校の先生が言っ

ていたことです。

「平等と公平の違い分かるか。」

ぼくはなにがちがうのか忘れてしまったので調べました。すると、一番上に図が出てきました。それは、箱の上に立って赤ちゃん、子ども、大人が野球観戦しているものでした。平等のほうの画像では、みんな一個の箱に立っていました。ですが一個だと赤ちゃんは、柵が高くて野球が見えていませんでした。

一方公平は、みんなが野球を見れるように人によって箱の数が変わっていました。これで思い出しました。平等はみんなに「同じ物」をあげ、公平はみんなが「同じになれる物」をあげることなのです。

今の世界は平等が多い気がします。学校はみんなに同じ勉強を教える。高校だったら、校則はみんないっしょ。でもぼくは公平の世界のほうがいい気がします。そうなったら、立場も同じになって、話しやすくなる、上下関係がない世界のほうが生きやすいと思いました。そのために、まずは勇気をつけてみんなと同じ立場に立てるようにがんばります。そして、いつかはみんなが公平の世界になってみんなが仲良くなれたらな、と思います。

